

ギフチョウの生活史

『ギフチョウ観察記録』スケッチ：吉田 薫さん

春

4月中旬～

卵

カンアオイ類の葉の裏側に数個～10個の卵を固めて産みます。卵はまるで真珠のようです。



さんらん産卵

2・3週間後
ふか 孵化

3日目

1令幼虫

体長約4ミリ



6日目

2令幼虫

体長約5～8ミリ



孵化したばかりの幼虫は、一か所に集まってヒメカンアオイの葉を食べる。

幼虫の期間は
約1か月間

9日目

3令幼虫

体長約15～20ミリ



14日目

4令幼虫

体長約30～35ミリ



5令幼虫になるまで
4回脱皮します

21日目

5令幼虫

体長約35～40ミリ



ようか 蛹化

30日目

6月中旬～

さなぎ

蛹

体長約19ミリ

地面の落ち葉や樹の根っこ部分などの安全な場所で糸を出して蛹になる。



夏と冬は休眠して
秋は成長が進みます

蛹の中での成長は気温や日の長さなどの条件に左右される。

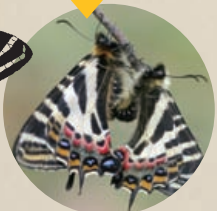
うか 羽化

4月上旬～

せい 成虫

長い蛹の期間を経て、翌春に美しい姿を見せてくれます。

こうび 交尾



夏・秋・冬

翌春

「春の女神」ギフチョウ
ギフチョウは明治時代、岐阜県で発見されたことから、その名前があります。夏・秋・冬と一年の多くを蛹で過ごし、春の桜が咲く時期、蛹から羽化します。落ち葉や枯草の下から、はい出してきたばかりの成虫はハネ(翅)を広げるための場所を探して、いそがしく歩きます。ハネは黄と黒色の縦じま模様で、後翅の外側には青や橙、赤色の斑紋が入っているのが特徴です。成虫の寿命は短く、約2週間ほどしか生きられません。この短い命の間に、翌年の春へと世代をつないでいきます。



セセリチョウ科
ミヤマセセリ



シロチョウ科
ツマキチョウ

ギフチョウのように春の短い間だけ姿を見せる生き物は「スプリング・エフェメラル(春の儂い命)」と呼ばれています。

スプリング・エフェメラル

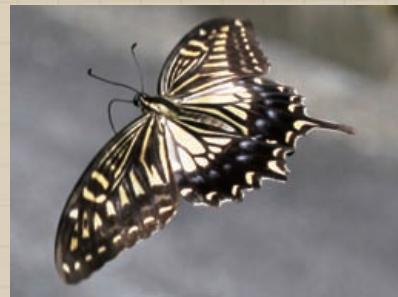
「アゲハチョウの仲間」
ギフチョウはアゲハチョウの仲間です。ハネの模様や後翅の突起などは、アゲハ(ナミアゲハ)やキアゲハと似ています。ほぼ日本全土に分布しているアゲハは人家の周りでもよく見られる、わたしたちにとって馴染み深い蝶です。ギフチョウはアゲハに比べると小さく、ハネを広げた状態で5センチほどしかありません。日本にはギフチョウの仲間はもう一種、ヒメギフチョウが北日本に分布しています。

アゲハチョウの仲間



キアゲハ

成虫期は、4月～10月。年に1～4回発生します。ハネはアゲハよりも鮮やかな黄色。(写真はハネの裏側)



アゲハ(ナミアゲハ)

成虫期は、3月～10月。年に2～5回発生します。ハネは薄いクリーム色。

※羽化する季節(季節型)により、斑紋、大きさに違いが生じます